

GPT-5.2 徹底解剖：何が進化し、何が課題か？

2025年12月リリースのOpenAI最新モデル「GPT-5.2」は、専門的な知識労働に特化し大幅な性能向上を実現。その驚異的な能力と、コストや応答スタイルの変化といった課題を整理し、全体像を明らかにする。

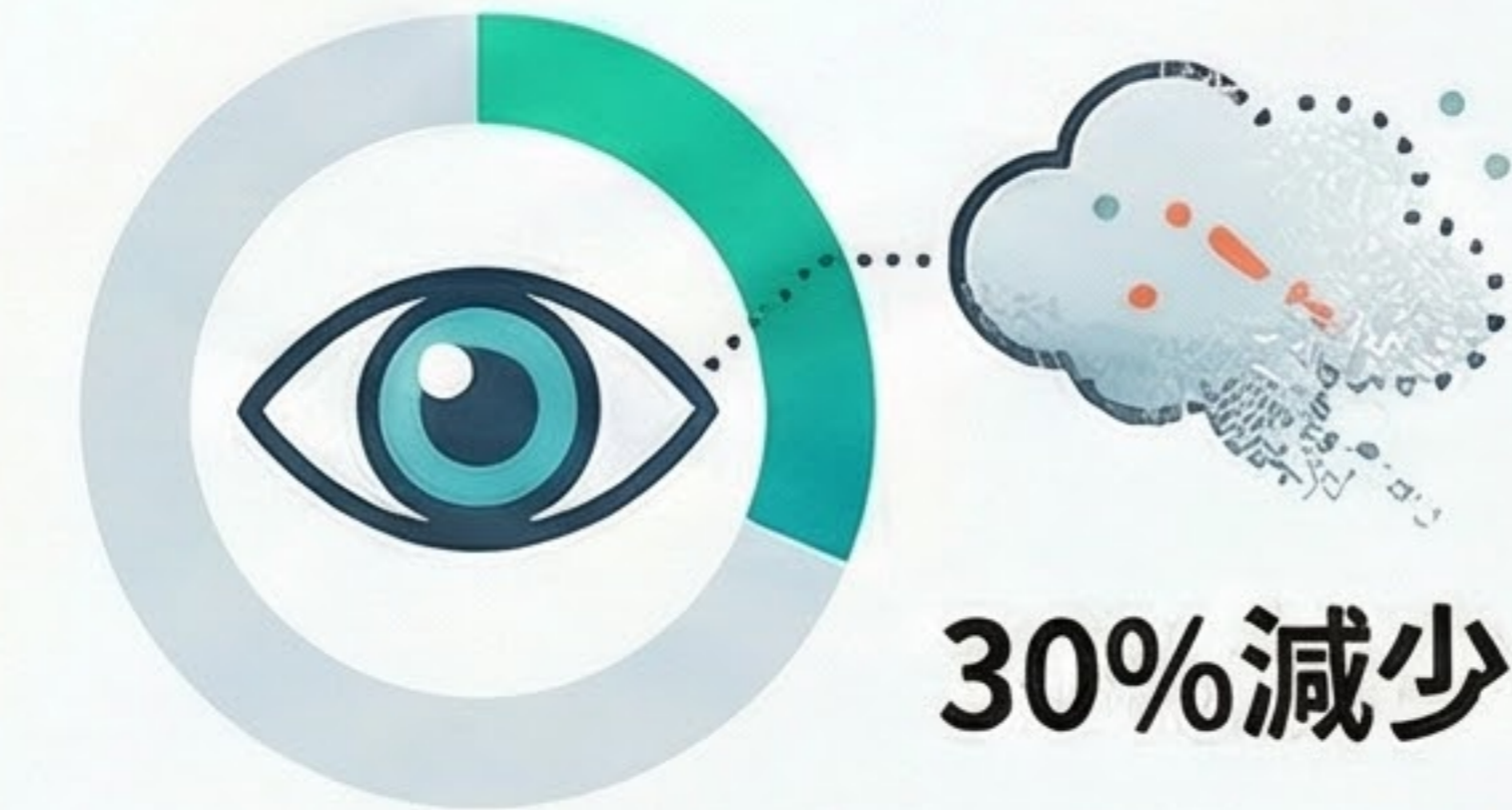
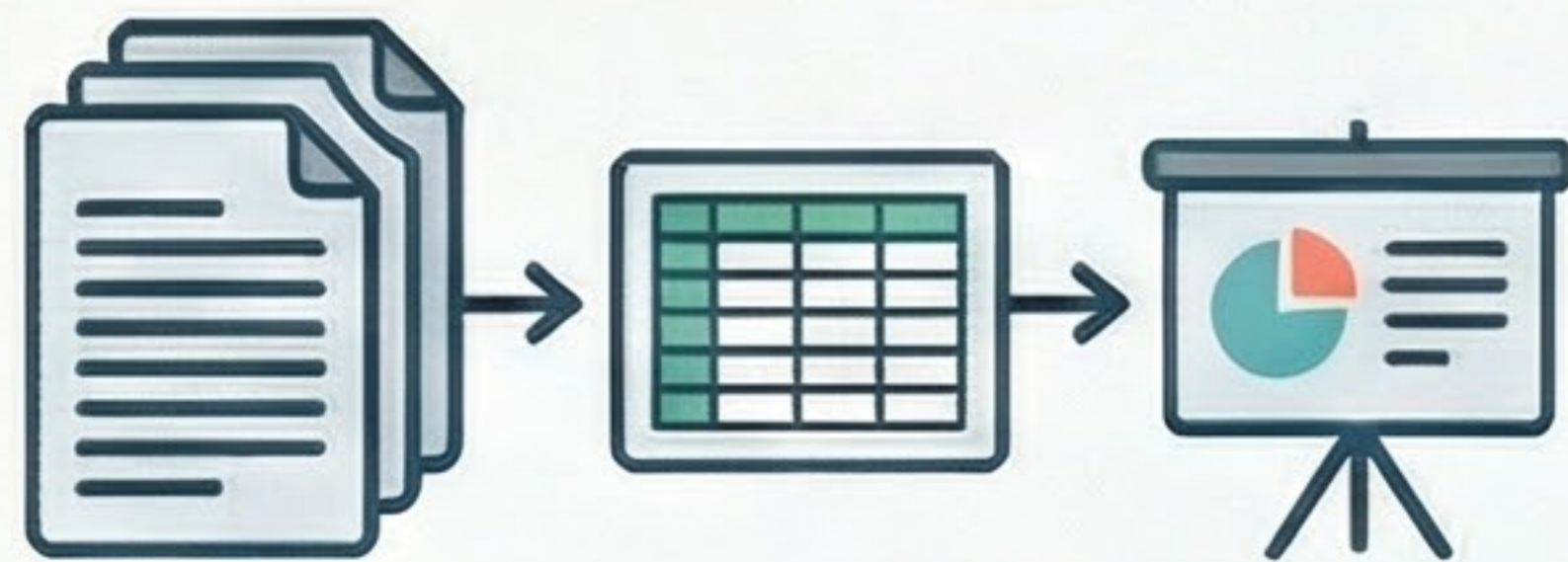
主な進化点 (The Upgrades)



専門家レベルの タスク遂行能力

44職種の知的業務において、7割以上のタスクで専門家と同等かそれ以上の成果を達成。

7割以上



幻覚 (ハルシネーション) が30%減少

誤った情報の生成が大幅に減り、リサーチや分析業務における信頼性が向上。

実務を加速させる新機能

長文読解能力が向上し、スプレッドシートやプレゼン資料をChatGPT上で直接生成可能に。

課題と懸念点 (The Caveats)



API利用料の大幅な高騰

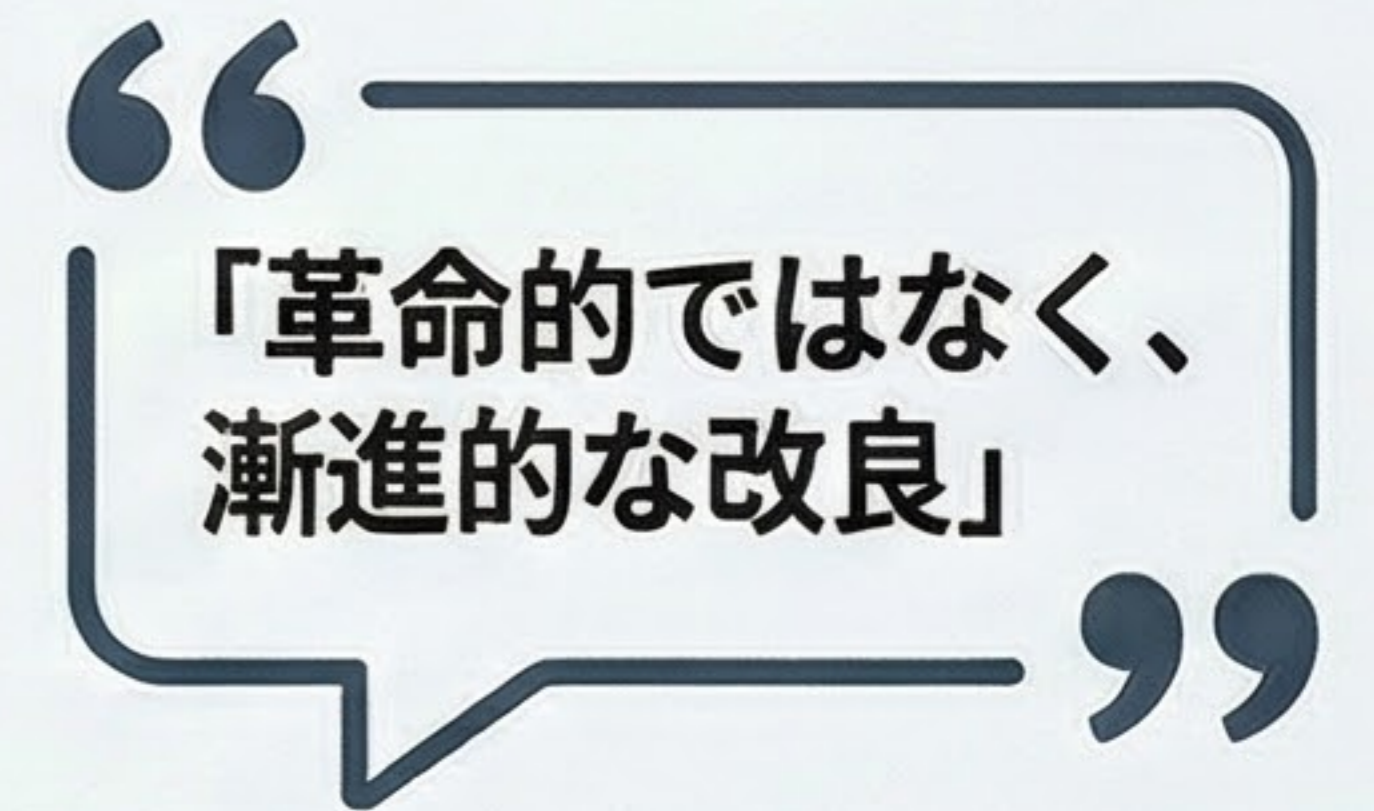
従来モデル比で40%増となり、個人開発者には利用しにくい企業向け価格設定との指摘。



Before



After



「革命的ではなく、
漸進的な改良」

「革命的ではなく、
漸進的な改良」

飛躍的なブレークスルーではなく、実用面での着実な改善という評価が専門家の間で大勢。

応答スタイルがビジネス ライクに変化

正確性を重視した結果、応答が硬質になり「創造性や遊び心が減った」との声も。